



NPO 法人 日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing
— JSPON —
News Letter Vol.31



会員の皆さま、2020 年前半の半年間は、COVID-19 が世界中に猛威を振るい、私たちの働く環境や子どもたちが生活し療養する環境が大きく変化いたしました。子どもたちは、どんなときも遊びを創り出す天才です。子どもたちにあやかって私たちもウィズ・コロナの時代に、新しいケアや学問を産み出していききたいものです。2020 年後半には、役員選挙や第 18 回学術集会が予定されています。会員皆さまの積極的な参画を、宜しくお願いいたします。

日本小児がん看護学会理事長 上別府圭子

第 18 回日本小児がん看護学会学術集会のご案内

第 18 回日本小児がん看護学会学術集会は、令和 2 年 11 月 20 日（金）～11 月 22 日（日）にかけて、福島県郡山市のビッグパレットふくしま（福島県産業交流館）にて開催を予定しております。今年度の学術集会テーマは、「受け継ぐ命 紡ぐ明日」です。

特別講演は、スピリチュアルペイン・ケアについて東北大学病院緩和医療科の臨床宗教師 金田諦晃先生に、ご教示いただきます。また、教育講演では、広く患者・家族の声を聴いてこられた認定 NPO 法人ささえあい医療人権センター COML の山口育子先生より、医療を受ける主体である「子ども」の権利擁護についてあらためて考え、治療の選択や意思決定において子どもの理解や意向を大切にするためのヒントをいただきます。

看護ミニワークショップでは、「小児がん治療後の認知機能障害・高次脳機能障害」についての理解を深め、学ぶ機会といたします。また、シンポジウムでは、4 名のシンポジストに食事、体力低下に対する取り組みや、学習、社会参加、家族や友人との交流など「ICT 技術を活用した子どもおよび家族の QOL 向上のための環境づくり」の取り組みについて、ご紹介いただきます。

委員会企画といたしましては、ケア検討委員会が「小児がん看護ケアガイドライン 2018」の基盤の一つである「子ども・家族中心ケア」に焦点を当てたワークショップを企画しています。教育委員会は、「小児がん治療アップデート」として、2019 年に保険適応になった造血幹細胞移植前治療薬（リサイオ®）についてのセミナーを開催します。学術検討委員会は、看護が取り組む課題として「CVC 管理」を引き続き取り上げたセミナーを開催します。

3 団体合同シンポジウムは、「造血細胞移植後の生活」に焦点を当て、医療従事者及び患者・家族で現在の課題を共有する場といたします。また、2 学会合同シンポジウムでは「居住地を離れて治療を受ける」ことに焦点を当て、実際に経験をされた立場、治療を提供する立場、環境移行を調整する立場、長期滞在施設の立場からのお話をもとに、ニーズや支援についてあらためて考える機会といたします。

福島の地での開催を願いつつ準備を進めておりますが、同時に WEB 開催への切り替えやその形態についても検討を重ねております。**今年度の学術集会が中止になることはありません。**新型コロナウイルス感染症に関する動向を踏まえ、7 月中には開催に関する検討結果を示して予定予定です。

今年度の「with COVID-19」の学術集会が、多くの方々に「参加したい！」と思っていただけるようなものになるよう、「日本小児血液・がん学会」および「がんの子どもを守る会」と力を合わせながら引き続き努力をして参ります。今後の新たな情報については随時、学術集会ホームページ（<http://www.c-linkage.co.jp/jspho2020/>）に掲載していきます。定期的なご確認をどうぞよろしくお願い申し上げます。

第 18 回日本小児がん看護学会学術集会長

古橋知子

（福島県立医科大学看護学部）

【テーマ】「受け継ぐ命 紡ぐ明日」

会期：令和 2 年 11 月 20 日（金）～11 月 22 日（日）

会場：ビッグパレットふくしま（福島県産業交流館）

【プログラム】

- | | |
|----------------|---|
| 特別講演 | ：「看護に活かすスピリチュアルケア（仮）」 |
| 教育講演 | ：「子どもの権利擁護－医療の主体である子どもの視点からの再考－（仮）」 |
| シンポジウム | ：「ICT 技術を活用した子どもおよび家族の QOL 向上のための環境づくり」 |
| 看護ミニワークショップ | ：「小児がん治療後の認知機能障害・高次脳機能障害」 |
| ケア検討委員会ワークショップ | ：「子ども・家族中心ケアを考えよう～日々の実践の中で子どもと家族の声を聴いていますか～（仮）」 |
| 教育委員会セミナー | ：「小児がん治療アップデート」 |
| 学術検討委員会交流セミナー | ：「日常的なケアに活かす看護研究のエビデンス 2（仮）」 |
| 3 団体合同シンポジウム | ：「造血細胞移植後の生活」 |
| 2 学会合同シンポジウム | ：「居住地を離れて治療を受ける子どもおよび家族のニーズと支援」 |



第 17 回日本小児がん看護学会学術集会の報告

第 17 回日本小児がん看護学会学術集会を、第 61 回日本小児血液・がん学会学術集会、第 24 回がんの子どもを守る会公開シンポジウムとともに、令和元年 11 月 14 日（木）～11 月 16 日（土）の 3 日間、広島コンベンションホール/広島県医師会館で開催致しました。学術集会には、1,713 名（医師 912 名、看護師 413 名）、他職種 330 名、医学・看護学生 7 名、小児がん（AYA）経験者・市民等 51 名）と多くの方にご参加いただきました。

特別講演は、小児がん経験者である小林咲里亜氏をお招きし、「病気から子ども達から多くを得て、今がある」をテーマに、ご自身が「生きる」意味を得るに至ったご経験をお話いただき、多くの学びを得ることができました。教育講演は、チャイルドライフスペシャリストの藤原彩氏（広島大学病院）に、「小児がんの子どもとともに前を向いて ～成長する子どもの日常を支える～」をテーマに、子どもたちが元々持っている力を信じ、その力を十分に発揮できるようなかかわり、退院後を視野にいれながらの継続した「線でのかかわり」等をご紹介いただきました。参加者の皆様には、子どもたちとかかわる楽しさと深さを実感していただけたことと思っています。

看護シンポジウム 1「ケアをつなぐ」は、多職種や多施設の連携について医療と教育の立場からお話いただき、シンポジウム 2「エンドオブライフケアのチームアプローチ」は、様々な専門職の皆様、病院や在宅での緩和ケアと看取り、ご家族のグリーフワークについてお話いただきました。2つのシンポジウムは、ご参加の皆様が支えあう、大変実り多く温かな内容となり、今後のより良い医療・ケアにつながる機会になりました。

日本小児がん看護学会教育委員会は、セミナー「抗がん剤の基礎知識 ～プロトコルを理解して先を見越した看護をしよう～」を、ケア検討委員会は、ワークショップ「日常の実践に”小児がん看護ケアガイドライン”を活用しよう！」を開催し、最新の重要情報が発信されました。3 団体合同シンポジウムは、「小児・AYA世代のがんと生殖医療を考える ～さまざまな選択～」を、2 学会合同シンポジウムは、「小児がんに対する放射線治療のメディカルスタッフの役割 - 最適な放射線治療チーム構築に向けて」を開催致しました。ともに、課題を会場の皆様とともに分かち合う大変貴重な機会となりました。

一般演題は 73 題（口演 51 演題・示説 22 演題）の発表が行われ、それぞれの発表で活発なご討議をいただきました。

多くの方にご参加いただき、本当にありがとうございます。施設の制約や運営上の不手際についてお詫び申し上げますとともに、皆様の温かいお力添えで無事に終了することができましたことを、この場をお借りし、心から御礼申し上げます。



第 17 回日本小児がん看護学会学術集会長
広島大学大学院小児看護開発学 祖父江 育子

全国小児がん親の会からのメッセージ ～新型コロナウイルス感染症拡大の中で～

COVID-19 は、小児がん親の会の活動にも大きな影響を与えています。例年だとこの時期、全国の親の会が一堂に集まって報告会を開催していますが、今年はそれもできません。そうした中 Zoom を使用し、初のオンライン交流会を行い、全国から 19 人が参加しました。交流会では、参加したすべての団体に例会やイベントなど、通常の活動ができていない状況が報告されました。特に困っていることとして「病棟のプレイルームが閉鎖されている」「面会も 1 人のみで 2 時間まで」「検査が延期、いつできるのか未定」などの報告がありました。また、「診察は電話で行っている」「ペアレントハウスをはじめとする宿泊施設も閉鎖されている」など、療養環境の変化に戸惑いの声もありました。一方で、子どもたちといえば、「友達とゲームをオンラインでやるようになり適応力にびっくり！」「会の活動をインスタで発信するようになった」など、柔軟に対応している様子もうかがえました。また、「セカンドオピニオンをオンラインで行いたい」など、課題も出てきました。

親の会は今、病院内に入ることもできず、活動ができない中で今後どう運営をしていったらいいのか悩みもありますが、SNS などデジタルツールを活用して、それぞれ工夫しながらその活動を維持しています。その反面、どんなにデジタル化が発展しても親の会は AI には替えられません。医療従事者の皆さまに感謝しつつ、早くこの状況が改善し対面式の親の会の活動が再開できるよう願っています。

静岡県立こども病院 ほほえみの会
代表 池田恵一

看護界で発信された COVID-19 関連の声明

◆看護・医療の 47 学会が加盟する日本看護系学会協議会（JANA）は、4 月 17 日に「医療崩壊を防ぎ、人々の命と尊厳を守る」ためにという緊急メッセージを発出しました。“世界的な危機にある中、社会の一人一人の生存・生活・尊厳が守られ、希望をもち、未来に向けて歩むことができるよう、看護界が一致団結して COVID-19 に対する対応策を検討してく”という力強い声明文になります。詳しくは HP をご覧ください。一般社団法人日本看護系学会協議会 <http://www.jana-office.com/>

◆日本看護協会は、日本国内に感染が拡大する危険を予知し、2 月より数々の声明文を国内の関係省庁へ提出しています。内容は、COVID-19 の治療に充たる医療現場から地域、在宅に至り、特に看護師の労働環境の改善に関する内容が占めています。詳しくは、HP をご覧ください。

公益財団法人日本看護協会 各種要望について
https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/covid_19/request/index.html

政策委員会 井上玲子

海外文献の紹介：コロナ禍でがんと闘う子どもと家族の理解と新しい着想でのケア

COVID-19 のパンデミックによって、がんと闘う子どもと家族もこれまでに経験したことのない大きなストレス下におかれています。ここでは、がんの子どもや家族の心理状態の理解とコロナ禍にありながらも新しい着想でのケア実践の一助となるような国外の文献を2つ紹介します。

Ellis K & Lindley LC. A Virtual Children's Hospice in Response to COVID-19: The Scottish Experience. Journal of Pain and Symptom Management, 2020 May.

これは、コロナ禍での新しい子どもホスピスケアについての英国スコットランドからの実践報告です。この活動は、COVID-19 アウトブレイクにより、ホスピスベッド数が縮小され、End-of-Life ケアが必要な子どもの家族が医療者との接触を恐れサポートを拒むことにより、「従来と同様のサービス提供は困難である」という早い段階での認識から始まった活動です。ソーシャルディスタンスをとるという国からの要請を守りながら、患者や家族のニーズに応えるために開始された「virtual hospice」という新しい発想です。全英の子どもホスピス組織や慈善団体と協働してホスピスサービスに関するアイデアを集め、医療専門職、ボランティア、IT 技術者から成るチームにより計画されました。サービス内容は、医療者からの電話による臨床アセスメント、ボランティアによる電話・バーチャルでの読み聞かせ・アクティビティ・クラウドクター、バーチャルでのピリブメント・スピリチュアルサポートなどで、方法を変えて従来のサービスを提供したり、新たなサービスを開始したりしています。これらは全面的に NHS の支援を受け無料で提供され、End-of-Life にある子どもと家族を支えています。このように、COVID-19 によって従来のサービス提供が困難だとあきらめるのではなく、テクノロジーと人的資源を最大限に活用し、国や慈善団体とタッグを組んでサービス提供を続ける姿勢から学ぶところは大きいのではないのでしょうか。日本でもこれから長期にわたり外出の自粛、3密を避けるという政府や自治体の要請を遵守しつつも、子どもと家族が安心して療養生活を送ることができるように、新しい着想によるケアを模索していけたらと考えます。

②Casanova M, Pagani Bagliacca E, Silva M, et al. How young patients with cancer perceive the COVID-19 epidemic in Milan, Italy: is there room for other fears? Pediatr Blood Cancer. 2020 Apr.

これは、イタリアの医師と心理学者による、若年がん患者（15-21 歳）の COVID-19 アウトブレイクに対するリスク認識とストレスレベルに関する質問紙調査の報告です。対象は、治療中のがん患者 25 名、治療後フォローアップ中の患者 25 名、健康な同世代の人 25 名です。その結果、健康者の大多数はコロナ感染をほとんど心配していないのに対して、治療中、フォローアップ中のがん患者はコロナウィルス感染や重篤な合併症の発生を恐れていること、治療中の患者は自分自身を特に危険な集団ととらえていることが示されました。また、健康者の家族と比較し、がん患者の家族の子どもへ心配がかなり大きいことも報告されています。一方、パンデミックによる生活習慣の変化については、治療中の患者より健康者やフォローアップ中のがん患者の方がより強く感じていること、治療中のがん患者は所属集団の要請からというよりはむしろ自分の判断で生活習慣を変化させていることが示され、がん患者のセルフケア能力の高さがうかがえます。若年がん患者と同様に、年代の低い子どもも、マスメディアからの情報や周囲の変化により、さまざまな不安を抱えていることが容易に予測できます。子どもへの正しい情報提供、親の過剰な不安の緩和、感染予防にむけたセルフケア教育が、小児がん看護に携わる看護師に求められています。

国際交流委員 平田美佳



CNS のまめ知識：小児がんの子どもと家族の感染対策 ～新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大を鑑みて～

がん薬物療法の副作用として、骨髄抑制に伴う好中球減少や免疫機能の低下、バリア機能の障害などがあります。そのため小児がんの子どもは易感染状態にあり、感染症が重篤な合併症や生命の危機につながる可能性があります。

新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19 とします）の感染拡大は、世界中に感染症の恐怖を与え、感染対策を考えさせる契機となりました。筆者は、感染対策の徹底や外出の自粛、友人や家族と会えない生活、感染症発症に対する不安から、小児がんの子どもと家族の生活や心情を改めて考えさせられました。このような時勢を踏まえ、小児がんの子どもと家族の感染対策と支援のあり方を考えたいと思います。

COVID-19 の感染拡大に伴い、各施設の機能による相違はありますが、多くの施設で面会や付き添いに関する制限を余儀なくされています。これらの制限は入院中の子どもと家族双方にとってつらい状況であり、きょうだいを含めた家族全体に影響を与えます。また、休校や集団での遊びの禁止など、子どもにとって大切な学習や遊びの機会、子ども同士のつながりを持つことが難しい状況もあります。看護師にとってもこの状況は、子どもと家族に思うような支援ができない無力感や制限を課すジレンマがあります。

このような中で、感染対策において大切な視点と看護師ができる支援はどのようなものでしょうか。筆者自身まだ模索している点もありますが、第一に子どもと家族に正しい知識を提供し、制限や対策の根拠を理解して行動できるような支援が重要と考えます。その際、子どもの認知発達や行動特性に応じた適切な環境を整え、対策を検討することも大切です。第二に子どもと家族の気持ちを把握し、Web を活用した面会や学習など、制限のある中でできる支援を検討する必要があります。第三に感染症全般において適切な感染対策と予防は前提ですが、それでも感染症を発症した場合には、早期発見・早期対応と共に、子どもと家族が過度な自責感や罪悪感を持つことのないような心理的支援も重要と考えます。

COVID-19 との闘いはまだしばらく続くことが予測されます。つらい日々ではありますが、誰しもにとって感染症が身近な今だからこそ、感染症や感染対策が心理社会面に与える影響も考え、他施設とも情報共有しながら感染対策として新たな支援のあり方も検討できればと思います。

慶應義塾大学病院 熊谷祐美



「小児がん看護師」資格取得のご案内

小児がん医療の現場では、小児がん看護の知識・技術を深めた専門性の高い看護が必要とされています。

小児がん看護学会では、2019年12月より資格認定制度を開始しました。現在約150名が受講されています。受講はe-ラーニングが基本となりますので、時間や場所を問わずご自身のペースで受講できます。また、繰り返し視聴し理解を深めることが可能です。内容は「基礎コース」「認定コース」に分かれています。臨床や研究で活躍中の講師が講義を担当しますので、すぐに実践できる内容から、専門性の高い応用までを学べます。また、単元ごとのテストは、重要なポイントが出題されますので、要点を押さえ習得できる仕組みになっています。幅広い知識と熟練した技術習得のため、受講をはじめませんか。受講についてのご案内は、学会ホームページをご覧ください。



日本小児がん看護学会認定 小児がん看護師制度
<http://jspon.sakura.ne.jp/qualification/>
 専用アドレス;pon-office@jspon.com

選挙について

7月1日から評議員選挙が開催されました。7月30日までのオンライン投票になりますので、ホームページをご覧の上、皆様のご協力をお願いいたします。

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/election/JSPON>

【国際小児がん学会(SIOP2020)のお知らせ】

今年の国際小児がん学会(SIOP)は、10月14日～17日に virtual meeting で開催されることになりました。普段と比較して参加費が安くなっています。Early Bird は9月1日までです。この機会に、国際学会を覗いてみませんか？

<https://siop-congress.org/>

尚、新型コロナウイルス感染症の流行のため、今年度は小児がん看護学会としての病院見学ツアーの企画はいたしません。2021年はホノルル(2021年10月21日～24日) 2022年はバルセロナ(2022年9月28日～10月1日)で開催される予定です。

国際交流委員会 小川純子

◆小児がん看護学会誌編集委員会より

次号の学会誌「小児がん看護」の発刊は9月です。学会誌「小児がん看護」に掲載される論文は、調査研究の内容や実践内容など様々な種別があります。臨床実践、研究者による多施設での研究や、大学院生の論文など、様々な小児がん看護に取り組みをご覧いただく学会誌になっています。COVID-19によって生じた小児の療養環境における様々なチャレンジ向き合う中で、小児がんに関わり看護師が互いの知見や情報を交換することの大事さを実感しています。COVID-19だけではなく、日頃の取り組み・知見を伝え合う媒体の一つに、学会誌がなればと思います。

教育委員会からのお知らせ

毎年8月末に「小児がん看護研修会」を開催しておりましたが、今年度は、「東京オリンピック2020」が予定されていたため、開催いたしません。

次年度以降の企画の参考とするために、研修会に希望するテーマや内容について、アンケートをさせていただくことにいたしました。是非多くの皆様のご意見を賜れば幸いです。尚、本アンケートの結果は、学会運営の参考にさせて頂くと共に、委員会の活動として学会などで報告させて頂く可能性があります。

問い合わせ:教育委員会

Email: jsponseminar@gmail.com



【2019年度会計報告】

<収入の部>

項目	決算額(円)	内訳
会員年会費	5,496,000	569名分、過年度分54名分
事業収入	173,898	研修会事業収益
雑収入など	45,734	学会誌販売、受取利息など
前期繰越収支差額	9,319,869	
計	15,035,501	

<支出の部>

項目	決算額(円)	内訳
事業費	2,411,656	学術集会、抄録集・学会誌発行、広報活動、教育活動など
管理費	2,015,683	会員管理費、会議費、通信費、消耗品費など
計	4,427,339	

残金 10,608,162

会費納入のお願い

日本小児がん看護学会の年度は、1月～12月となっております。2020年度の振込みがお済みでない方は、お早目にお願いいたします。

[会費振込み先]

郵便振替口座:00590-9-79689

名称:特定非営利活動法人 日本小児がん看護学会

日本小児がん看護学会

理事長

上別府圭子

ニュースレター担当

東海大学医学部看護学科

井上玲子・杉村篤士

埼玉県立小児医療センター

田村恵美

[連絡先] E-mail: rinoue@is.icc.u-tokai.ac.jp